

No. 91 公民館だより

平成5年12月
宮津市宇由良
由良の里センター内
由良地区公民館

不易流行

館長 小室 哲 寛

近來の世の中の急激な變動につれて私達の周りにも何かと多くの變化が起つてきている。

人々の考え方が時代と共に流動していくことは当然のことであり慶ぶべきことであるが、かと言って人間社会でも組織でも新しい世代に迎合して、慣行や因襲その他何でも安易に改めてよいものなのか。いやその中には本質的に変わらないものや、変えてはならないものがある筈である。それでは何が変わるものなのか。何が変えられないものなのか。次々と疑問が起る。

これ等の問題点を考える上で私の指針としているものに「不易流行」という言葉がある。

不易流行という語は、蕉風俳諧の根本理念の一つとして、三百年以上も前に芭蕉によって説かれた語である。それによると芸術の本質の永遠性ならびに不變性が「不易」であり、その時代とともに變化する流動性が「流行」である。この二つの根源は一つ「風雅の誠」即ち芸術の真実であると説いている。その風雅の誠を追求しつつ移り変つてゆく新しきそ真実の

流行であり、いわば風雅の誠（真実）を静的にとらえたものが不易であり、動的にみたものが流行であるというのである。これは天地自然の運行に合一しようとする芭蕉の宇宙観に基づくものであり、そこには中国の易や老荘の哲学、禅などの思想が影響しているとあります。

不易流行とはこのように芭蕉の崇高な根本理念であるが、これは他の芸術や文学にもあてはまり、又拡大解釈すれば人間の社会生活にも、企業にも、町づくりにも総てにあてはまる至言であると私は思っている。

例えば人間の社会生活においても「流行」の部分は今や速いテンポで時代と共に移り変わり流動している。新しい時代の人間として、これを理解しその中に生きることは大切である。しかしその流れの中にあつて、本来変えてはならない「不易」の部分も一緒に流してはいないかを立ち止つて考える要がある。

先ず何が不易であり、何が流行であるかを見極めることであり、人倫に基づく規範とか原理原則という基本的不變性の「不易」と、流転し乍ら時々の新風の体の「流行」を明確にわきまえることが大切である。

流行といつても永い流れの中で新奇を追い続けて質が変わつて来ているものもある。又本来不易なものが流行と混同されて考えられたり、又その逆の場合もある。これ等を分析整理の上で事を決することが肝要である。

これからの町づくり人づくりを例をとつてみても、この語は正に立派な指針であると思う。先ず「不易」の基本的な部分を確認し、本来変えてはならないものは守り続ける意志を堅持し、その上で理念としてあるべき真実の姿を追求しつつ、時代にそつて移り変わりゆく新しきもの「流行」をめざして、新しい町づくり人づくりに進まれんことを祈るものである。

行事報告

主事 山下清一

由良地区大運動会

九月五日、二年に一度の地区大運動会が盛大に挙行されました。好天に恵まれ、賑やかに、和気藹々、楽しい運動会となりました。

可愛い園児のかけっこから、ボラつり、むかで競走、大縄とび、綱ひき、マラソン、対抗リレー等、運動会ならではの競技を皆んなで楽しみました。

各部のテントは、早朝から満席となり、陽光漲る中、応援の拍手歓声が、終日由良岳にこだましました。成績結果として

総合優勝 第三部
四部対抗リレー優勝 第四部
大会役員を始め関係者の皆様
に、厚くお礼申し上げます。

フィットネス ポーツ地区大会

老いも若きも、誰でも気軽に楽しみ、親しめるスポーツとして、地区公民館が市教委のご指導を受けながら、フィットネススポーツ教室の中で取り組んで参りましたグラウンドゴルフとソフトラレーボール大会を開催しました。初めての大会でありましたが、両大会とも大勢の方々が参加下さり楽しく、盛大な大会となりました。

●グラウンドゴルフ大会

(十月十三日ナイター)

四部対抗形式、各チーム男女混合九名にし、八ホール、ストロークプレーにより、ゲームが進められました。

心地よい夜風を頬で感じながら一打ごとに、一喜一憂、ホールを目指しボールを打ち継ぎゲームを楽しみました。
初心者の方々にも、グラウンドゴルフをご理解いただき、面白さ、楽しさを満喫していただきました。

優勝 第二部

	打数計	順位
一部	283	4
二部	241	1
三部	244	2
四部	262	3

〔優秀選手〕

山田忠雄(打23) 榎岡 豊(打24)
津田 一(打24) 升本 登(打24)
大森勝治(打24) 小川春枝(打24)

●ソフトバレーボール大会

(十一月十一日夜)

四部対抗混合六人制による、リーグ戦方式により試合が進め

られました。選手はソフトに、或るいは機敏に、コート狭しとボールを追いかけ、汗と笑顔の歓声が体育館にこだましました。
一般バレーボールと一味違った優しさ、危険のないソフトバレーボール愛好者の輪が、更に拡がることを念じています。

優勝 第三部

	一部	二部	三部	四部	順位
一部		○○	●●	●●●	3
二部	●●		○○	●●	4
三部	○○	●●		○○	1
四部	○○	○○	●●		2

●文化祭

十一月七日(日)

今年も恒例の地区文化祭を華やかに開催することが出来ました。

三年続きの生憎の雨天となり客足が心配されましたが、おいおい回復し昨年と変わらぬお賑わいと盛会となりました。

・ 展覧会場は、生花教室の皆様
の華やいだ生花に囲まれて、小中学生の豪快、繊細な絵画に書道、技巧を駆使し、被写体と一体となった精妙な写真、あまり知られていない由良の珍しい風景、運動会やお祭りの楽しい写真、また栗中の嶋谷先生のヨーロッパの風景画、小室公民館長の能面の微笑、と技巧に感じ、また「ちぎり絵」サークルの皆様
の初出品作に観客が足をとめていました。

茶席では、閑座聴松風、の心境を思索し、静かに一服を味わいました。

屋外では丹精の盆栽が展示さ

れ愛好家の目を楽しませました。

生涯学習教室では、運動会やお祭等のビデオが放映されました。好評で終日観客がおしかりました。

・ 婦人会のバザー会場、有志の喫茶コーナーも大繁盛、余剰野菜や魚貝類も市価の半値? と大安売りで客を引きました。心配された天候も回復し盛会

出 会 い

由良婦人会 山 田 弘 子

紅葉の色づきも一段と鮮やかになって参りました今日この頃、地域の皆さま、お元気で過ごして下さいようか。

日頃由良婦人会行事に対しましてご協力いただきありがとうございます。

地域社会において婦人会の役割は数多く有り、少しでもお役に立ちたいと存じ住みよい明る

裏に意義ある文化祭を終了する

ことが出来ました。貴重な作品を出品下さった多くの方々を始め、文化祭成功のために献身ご協力下さいました皆様に厚くお礼申し上げます。

追記
お盆行事である恒例の、球技大会及び盆おどり大会は、降雨のため中止となりました。

い地域、心の通い合う地域づくりを目指し、そんな気持ちで接して参りました。

役員をさせていただいていますが、多くのお出合いがあります。敬老会での一コマですが、晴天に恵まれ由良小学校体育館において、多くのお年寄をご招待し自治会、婦人会の主催で盛大にとり行われました。同じ由良

に住んでいても、知らない人も多く有ります。又、久しぶりに出会う人々もあります。会場の上履下履の交換の際、ナイロン袋を差出し中に入れてあげようとしたら、よいで、よいで、と、遠慮され、今日は特別にサービスやで、と言うと、うあー、今日だけか、と、大笑いをしました。

なにげない会話ですが、何か親近感がわき、その後出会う度話が弾みます。人生経験豊富な人で、いろいろ学ぶ事が多く有ります。
由良小学校では、お年寄と子供
のふれあいを大切にされてお
ります。音楽会、運動会、敬老
の日は、勿論通信にて呼びかけ
をされ、お年寄を大切にする心
を教育されています。
高齢化が叫ばれている中、明
るい温かみのある家庭を築く事、
これが私達に与えられた課題で
あると思います。
もう一方、ツデーマーチ

(十五キロコース、三十キロコースを歩いてゴールする競技)です。あいにくの天候でコンディションは悪く気の毒でしたが、婦人会は市営グラウンドにてコーヒーやあさり汁のサービスに当たっていました。

お昼近くになって次々と市営グラウンドにたどり着き、お弁当とこのあさり汁を各自持ち小休止中の或る男性が、「このあさり汁を、飲みたくて毎年、この競技に出ている」と言う人に出会いました。「疲れた体には、この汁が、最高だ」と言われ寒い中頑張つて作った甲斐があったと思えました。貝とだしのジャコは地元で取れた物、みそは世屋みそ、これこそ、自慢出来るものばかりです。出身は大分県だと言う事でした。「来年も又、会いましょう」と、約束して次のコースに向かっていたかれました。この様な見知らぬ人との出会いと、感動的なドラマが春から次々と生れました。

人と人とのふれあい、親と子のふれあい、お年寄と子供とのふれあいを大切に、これからも、

文化祭

お茶席に参加して

大森 多希子

私は小学五年の夏にお茶を習い始めました。それまでにも、おばあさんに教えてもらっていたので、お茶を習わせてもらえてうれしかったです。

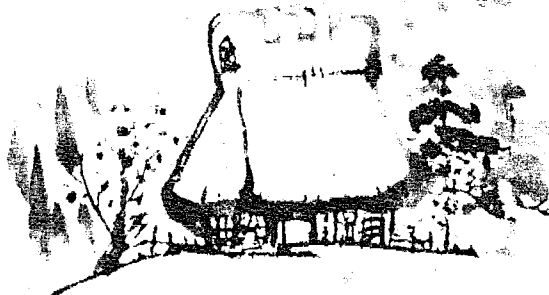
初めは何も分からずただお茶をたてられるだけだった私に、先生がいろいろと教えてくださいました。なんとか自分一人で略盆点前など初歩のお点前ができるようになったころ、初めて文化祭に出してもらいました。知っている人、知らない人の見ている前でやるのはとても緊張してあがつてしまい、よくまちがえました。でも、難しいお点

前をしたり、何度かでていううちに、あまり緊張せず自信を持ってできるようになりました。

お茶を習ってよかったことの一つは、夜眠くならないことです。私は受験生なので本当に助かっています。そして二つ目は、礼儀作法を身につけることができ、自信がつくと人の前でも恥ずかしくないようになります。

三つ目は、一から教えてもらうことばかりですので、そのときは素直な気持になります。最後はなんといいってもお茶の稽古が終った後のなんともいえぬ充実感です。

「今日は行くのがいやだなあ。」と思いがた行っても、帰りはなんだかいい気持で帰ることができます。寒い日でもあったかい気分で帰れます。お茶を習わなかったらそんな気持ちは味わえなかったと思っております。今度の文化祭のお茶席でもお手伝いのできたことを嬉しく思っています。



文化祭

婦人会 坂下好美

毎年十一月のこの時期、私は婦人会の催すおうどんやおぜんざいをよばれに由良の里センターに子供を連れて、出かけて行く一人でした。

ところが今年はおうどん、おぜんざいの券を売りに地区の全戸を手分けて廻ると思うと、どれだけ売れるだろうかとドキドキしていました。一枚でも買っていただけたら、もうとても嬉しくて、「毎年楽しみにしているんですよ」と言われて、心配していた心が和むのでした。さて、文化祭当日は朝から、役員全員の顔が、緊張と力を合わせて頑張ろうという気持で一杯の様に思えました。テーブルを並べて、可愛い野の花を飾り、おうどん用のねぎ

を手早く切り刻む音がして、前日も下準備に本部役員の方は、精力的に段取りされていて、裏方の調理室は所狭しと準備されたものが置かれ、沢山のうどん玉も運ばれて来て、全部食べてもらえるのかと心配になりながら、持ち帰りの分をナイロン袋に入れ始めました。機械的に二玉用、三玉用、ねぎとかまぼこも付けて、作り置きも出来ました。

時計を見ると十時開店の婦人会食堂も最初のお客様を待つばかりです。慌しい中で、おうどんの試食があり、おいしかったです。出来たと、喜びました。運ぶ人、(ウェイトレス)の私達は少しずつ増えてくるお客様に注文を聞き、間違わないように、

素早く運んで愛想よく出来ればプロ級なのですが、あつちからこつちから言われると頭がパニックになりそうだったり、注文の品をお盆に乗せ、

「あら、さっきのおばあさんはどのおばあさんだったかな」と思うようなこともありました。次々と下げてくる食器を洗う人、役割分担で仕事を片付けていきます。里センターの中は、一時座る場所を探す程立て込み、汗が流れて熱気がムンムンしているのと対称的に、テントの中で売物担当の人はジャンパーを着込んで風が冷たい雨混じりの日でした。

時間も終わりに近づいた頃、追加注文も断らざるを得ないようになつてきました。完売です。何百食のおうどんやおぜんざいが全部出つくして、みんなの顔に疲れと終ったという安堵感が出てきました。「おうどんの麺もだしもすごくおいしかった」とか

「おぜんざいを持って帰ってよばれたけどおいしかった」など、私達役員をほっとさせてくれる嬉しい言葉があちらこちらから聞こえて来ました。今後この催しを続けて行く事で由良地区の親睦が深まればいいなと思います。地域の方々のご支援、ご協力に対し深くお礼申し上げます。



すばらしいふるさと由良

宮津市立由良小学校旅行団

親切な人々

六年 植村 裕美

私は、今年の夏休み、学校の児童代表として、山形県鶴岡市由良へ行ってきました。

そこは、庄内由良で、こっちの由良は、丹後の由良で、由良同志です。なぜ同じ名前なのか、ちゃんと理由があります。昔、一四〇〇年前、蜂子皇子という人がいて、その人は丹後の由良の人に助けられて、船で山形県まで逃げられたそうです。それで、同じ由良になったと言われているみたいです。

同じ由良という名前のせいはこちらの由良と、本当によく似た所でした。地形的にも日本海に面しているし、山々にかこまれているし、観光名所も多いし

特に私達の泊った国民宿舎からは、すっごくきれいな夜景が見

られました。一生忘れません。

かんげい会では、とても親切に迎えていただきました。

人の情や、あたたか味が、伝わってきました。

ボートに乗せてもらって、観光もしました。ある人が、眼鏡をあやまって海に落としてしまったら、案内人みたいな庄内の人 が服のまま飛び込んで、その眼鏡をとってくれました。すごく親切にしてくださいました。

蜂子皇子がいたという、八乙女の舞台も見ました。すごい絶べきでした。

私は、山形に行つて、とてもいい経験をさせてもらいました。

校舎一周めぐり

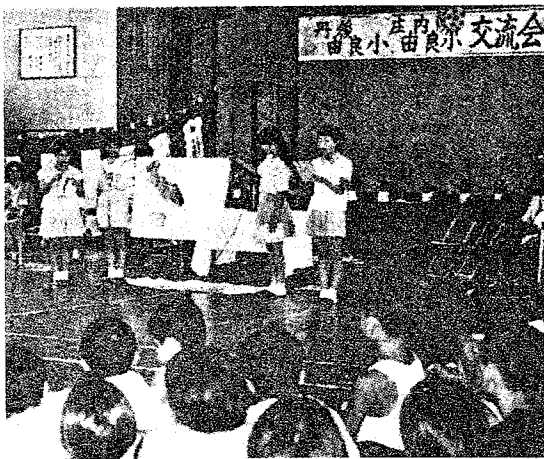
六年 森本 友子

山形の由良小訪問をして、すぐ向こうの六年生と仲良くなり佐藤未央ちゃんと、浩子ちゃんといっしょに、校舎一周めぐりをしました。

給食時間が始まってから、準備の間に行きました。廊下にはつ

てある物を見ているうちに、丹後の由良小、すなわち私達の学校の子の作品がありました。「へえー、今の中一の人の習字がはつたる。」と、びっくりしました。校舎は、木造の建物ですが、

友好の浜・宮津(京都)から学童使節団 「由良っ子」同士が交流会



丹後の様子を鶴岡の子供たちに紹介する宮津市由良の児童

丹後の皇子が山形山開山
1400年前の縁「花咲く
手製地図使い古里紹介

鶴岡

丹後の由良小とは少しがいがい
ました。歩いてみると、未央ちゃ
ん達の友達に会い、少しきんちよ
うしました。

「丹後の由良小の六年生は、ど
んな人がいるん。」
なんて聞かれて

「ハ、ハイ。〇〇みたいな人が
います。」

と、一言一言きんちようしてし
ました。途中、校長先生と
出会ったり、お父さんと出会っ
たりしました。それに、五年生
から一年生の人に、じろじろ見
られ、とてもはずかしかったで
す。私には、ほんの二、三分の
出来事が、五分も六分も、長く
感じました。時には、「何はな
そう。」と、まよふこともあり
ました。結局、単純な話ばかり
してしまいました。
とても楽しい時間でした。

文通しています

六年 小田原 利江

私は、庄内由良の佐藤彩さん

と文通をしています。文通を始
めて、約一年たちました。手紙
が来るのが楽しみでたまりませ
ん。今では、向こうの家族の方
とも親しくなり、家族ぐるみで
みかんを送ったりしています。

夏休みの終わり、山形へ行く
ことが決まりました。私は、発
表がしっかりできるかなあと
いう不安と、文通相手に会える
という喜びで胸がいっぱいでした。

庄内の由良小へ行った時、体
育館で彩さんが見つからなかつ
たので、会えないのだろうかと思
いました。見わたしましたが
みつからず、悲しくなってきました。
でも、六年教室で話しか
けてきてくれました。写真と全
くちがったので分かりませんで
した。やつと会えて、うれしな
かったです。正直いって、うれしな
みだが流れそうなくらい、うれ
しかったです。彩さんに会える
のは、この日だけだったのでい
ろいろと話していました。

文通では、学校の様子を聞いて

たり、答えたりしています。
文通って、楽しいなあ。
文通なんて、したことがなかつ
たので、こう思いました。文通
も一つのいい勉強です。これか
ら、続けたいです。



六年生との交流

指導教員 宮崎 妙子

小高い丘の上に、庄内の由良
小学校は建っていました。私達
丹後由良の一行は、十二時間の
夜行列車の旅で、まだ目も覚め
やらぬまま、庄内の由良小学校
に着いてしまいました。

「お早ようございます。」
の元気な声に迎えられる目覚め
遠く山形の地まで来たことを実
感しました。

ファンファーレバンドの晴れ
やかな演奏にのり紅白の幕が張
りめぐらされた体育館に入ると、
全児童をはじめ、PTAや自治

会の方々の大きな拍手に迎えら
れて、私達は丹後の由良の代表
として、今ここに居ると思うと
緊張を覚えるのでした。

歓迎式では、プレゼント交換、
八乙女踊り、蜂子皇子伝説のス
ライド視聴など、数々の楽しい
企画がされていて、いつの間
に緊張もほぐれていました。

そして、私の心を打ったのは
校歌の素晴らしい歌声でした。凜
として澄んだ声、美しいハーモ
ニーは、一瞬コンクール会場に
でも来ているのではないかと思っ
たほどでした。後で聞くと「伝
統的なものです。」と、いうこ
とでした。

丹後の由良校の児童代表の四
人は、挨拶や準備してきた資料
の発表を実に堂々と行い、庄内
由良の方々の温かい歓迎に、見
事に応えることができました。

歓迎のセレモニーが終わると、
六年生（かもめ学級）との交流
でした。十九名の学級は、教員
生活三年目という若い男の先生

が担任でした。明るく元氣のよい学級でした。

自己紹介で気付いたのは、かもめ学級の半数以上が『佐藤さん』でした。

「舞妓さんになりたいと思ったことがありますか。」

の質問には、戸惑って返事ができまませんでした。京都というと舞妓さんに結びつくのです。

また、方言クイズで、「チョス」(さわる)、「シヨス」(はずかしい)、「き」(食べなさい)などの庄内の方言には、ヒントをどれだけ出されても当てることはできませんでした。

交流中には、皆さん共通語で話ができ、お互いによく通じ合えることができました。この発音の美しい話し方が印象的でした。この日常会話の美しい発音が、あの素晴らしい校歌を育て伝統となっていることを知りました。

六年教室での交流が終わった後も、控室での交流が続いてい

ました。

庄内の人々の温かき、心のもったもてなしに感動し、学ぶことの多かった庄内由良訪問でした。

この交流と友好関係が、未永く続きますようお願いしています。

友好の浜で

六年 千阪 幸子

八月二十六日、友好の浜で、庄内由良のみなさんとの交流会がはじまった。後ろの景色は、白山島が美しい。交流式典の中で、私は宮津市立由良小学校の児童を代表して、あいさつをした。

今日は、かんげい式典に招待していただきありがとうございます。丹後の由良と、庄内の由良とは、とっても遠くはなれていますが、こんなに心と心が通い会えるなんて、すばらしいことです。二十一世紀を生きる私達は、今回の交流をもとに、もっともっと交流を深めていき

ましよう。

ここは、私達の由良そっくりで、びっくりしました。日本海が広大にひらけ、緑の山にこまれていきます。

道路のところにあった吹雪よけには、おどろきました。この地方は地吹雪で、片方の風をさけることで、田んぼの中に車がつつこむなどのひがいをさけているのだと聞きました。こんなに暑くて、丹後の由良と同じようにみえるのに、やはり生活の工夫のちがいがあったのです。

学校では、庄内の由良のことを教えてもらったり、特に六年生と交流してきました。住所を教えあったり、ゲームをしたり、とっても楽しくすごさせていただききました。少しは、友達みたいになれたと思います。

すばらしい、あついおもてなし、ありがとうございます。おかげで、こちらの由良のことを、とってもくわしく知ることができました。学校のようす

から、くらしの知恵まで——。これからも交流を深めていきましよう。

私達は帰ってから、報告会で庄内由良で学んできたことを、丹後の由良の人達に伝えた。

「とってもいい体験をし、いい勉強をしたんだな」と今では、思い出がいっぱいだ。この思い出は、きっとこれからも忘れな



ふるさと由良を

ほこりに思う子供に

校長 飯田 和子

庄内由良を訪問して三か月が過ぎたが、なつかしい、ほのぼのとした心あたたまる思い出として、向こうでのごが鮮明に今もよみがえってくる。

思い出おこせば、平成元年九月山形県鶴岡市立由良小学校長より一通の手紙が届いたのが発端であった。その年は、鶴岡市立由良小学校が独立して四〇年にあたり、記念の学校祭を、地域ぐるみでされたのである。

その学校祭に、友好の浜盟約をしている丹後の由良の小学生の作品を掲示することによって、子供達の歴史をみつめる心を養いたいということであった。

思いがけない便りに驚いたが歴史をさぐる会の四方先生にお話を聞いたりして、教職員が勤務地である宮津市由良について、そのすばらしさを学ばせていただいた。

早速、児童の作品や写真、祝電などを送って、感謝された。

この後、毎年児童作品や文集などの交換を行っている。

昨年度、庄内由良から訪問したいという便りがあった。しかし遠方だし、まさか実現するとは思ってもみなかったが、十一月六日、庄内由良より児童四人を含め、八名の来訪者を迎えた。

全校あげて歓迎し、交流会をもった。交流会では、由良小唄を来訪者にも入っていたらいい踊り、ほのぼのとした雰囲気にも包まれた。六年生との交流もすることができ、短時間にもかかわらず実のあるものだった。これが縁となって、その後、家族ぐるみで文通している子もあり心あたたまる交流がなされている。

こんな上になつたの本年度の庄内由良訪問であった。今は他校に転勤されたが、平成元年度当時の校長であった奥田先生もわざわざかけつけて下さった。

その後、奥田校長より、こんな手紙を頂いた。(要旨のみ)

その後、奥田校長より、こんな手紙を頂いた。(要旨のみ)

△小さな種、それも遠慮がちにまいた種が、これほどまでに美しい大輪の花を咲かせようとは思ってもよらぬことだっただけに唯々うれしく感無量でした。

当方の蜂子皇子伝説は、古来より有名で、今や県下の観光の一翼でもあります。交流をしようと一口にいっても、経費をはじめ数々の課題があります。欲ばらず、子供中心の交流が続けられますよう願っております。▽

私も、その通りだと思っっている。これからの由良を支えてくれるであろう子供達に、困っている蜂子皇子を助けたという、千四百年前の伝説に流れる由良の人達の心のあたたかさを学ばせてやりたい。そして、自分達の住んでいるこの由良が、今もこんなにすばらしい所なんだよ

と胸を張って言えるよう、これからの「村づくり」にも、この心を生かしてもらいたいと思う。最後になりましたが、庄内由良訪問を支援して下さいました由良の皆様へ厚く御礼申し上げます。

追記

十一月二十日(土)、宅急便にて庄内特産の柿が、山形県鶴岡市立由良小学校(庄内の由良小)PTAより、たくさん届きました。児童には、一個ずつ持ち帰らせ家族で話しながら食べるようにしました。また、残った柿は、給食に入れてもらい、庄内の由良をしのびながら食べました。

当方のPTAからは『由良安寿みかん』を送っていただきました。

まごころ交流



庄内紀行

由良の歴史をさぐる会

山形県鶴岡市由良から「出羽三山御開山千四百年祭」に招待された私達一行（自治会三名・小学校関係七名・歴史をさぐる会九名）は、八月二十六日の早朝六時半に鶴岡駅に降りたった。

駅頭には、神林共弥自治連合会会長・佐藤副会長・渋谷小学校長・育友会の佐藤会長・佐藤副会長・昨年丹後由良小学校訪問の佐藤さん達七名の方が揃って出迎えてくださる。早々に恐縮する。

バスに乘車、会長さん達の委しい説明を聞きながら「おぼこおけさライン」（国道七号線）を走る。途中由良坂の中段に「弁慶清水の跡」がある。源義経が奥州下りの際、この地で主人の為に清水を掘出した霊地と

いわれる由。三十分で「庄内浜由良荘」に着く。海を眼下に眺め歓迎の挨拶をうけ、日程を聞かせて頂く。

○鶴岡市立由良小学校訪問 小高い静かな環境にあり、建物は丹後由良小学校とよく似ている。

歓迎演奏、校歌斉唱、両由良の各代表挨拶と続いて愈々児童の交流会となる。丹後由良小児童四名の発表は、全校生参加の作品でその内容も表現も実に見事であり、庄内由良小児童達の発表も創意工夫に満ちて立派。全員で「八乙女踊り」に参加、交流の輪は熱く広がる。

小学校を辞して「夕陽街道」「八乙女通り」など旅情を誘う呼び名の道を歩いて庄内由良浜へ。見渡すとこの由良海岸は、

その中央沖合約百米の所に「東北の江の島」といわれる白山島があり、ここにかかる朱塗の優美な橋は、一・五料の海岸を南北に二分している。南半分は防波堤に囲まれた港で漁船が数十隻停泊し、北半分は遠浅の美しい砂浜で海水浴場となっている。浜中央部には二階建の「由良フィッシングセンター」があり、ここで新鮮な昼食を頂いた後、両由良の紹介、話合いがもたれてひとときを過ごす。

○海の羽黒伝説めぐり 招待の海上遊覧は二艘に分れて出港。気がつくと数羽の蝶が船上に舞う。

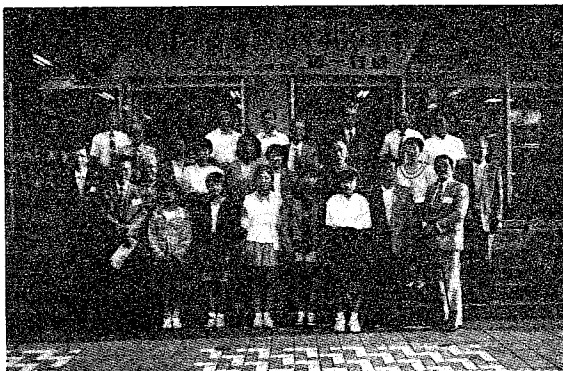
迎えんとするや蝶舞う初秋の海 政子

秘境八乙女浦は奇岩がそそり立つ。その間を船が進むと暗い洞窟があり、山形県の天然記念物「ニホンユビナガウモリ」が群棲しているとのこと。

洞窟が羽黒山頂の神の井戸と繋がっており、蜂子皇子は三本

足の霊鳥に導かれ羽黒山に赴いたという伝説があり、あまり人跡もなくロマンに彩られた地。蜂子皇子着陸の砂浜も見え、静かな波が打ち寄せている。私達二艘の船は互いに手を振りながら青海原を疾走する。遙か彼方に雪溪が光る鳥海山を眺望。神林会長、佐藤氏達の案内は細部にわたって温かい。

○歓迎式 千四百年祭を記念して造られた「八乙女の像」は、



由良浜の中央部に、かつては皇子を今は人々を招く優しい姿で立っている。ここに地区の大勢の人達が参加されての歓迎式が始まる。神林会長さんの感慨深い両由良の今日的意義に及ぶ挨拶、庄内由良再訪の歴史をさぐる会、四方寿朗会長の歴史、人生、自然を包み込んだ琴線にふれる挨拶等、各代表の挨拶は潮風を背にして力強い。庄内由良小児童、また昨年丹後由良小を訪問、今は中学生の四人も出席、挨拶される。一同感激。

丹後由良小児童の挨拶は今朝到着してからの印象を語る内容で、六百軒の道程を来た成果が発揮されたようで嬉しい限り。拍手に熱もこもる。

庄内由良より「八乙女像」のミニ像等記念品を贈られ、当方からは「丹後由良全景」の航空写真など親善交流。その後格調高い祝賀舞踊や情緒豊かな地元踊りが披露される等、庄内由良浜は華やいだ中にも気魄がこ

もりつつ式終了となる。白山島に映える夕日が美しい黄昏の中に宿舎へむかう。

〇懇親会 由良荘で七十人という盛大な宴会が開かれる。両由良各代表の挨拶に続き乾杯となる。その音頭をとられる佐藤廣雄氏は、昭和六十年丹後由良への訪問団の中のお一人で当時、鶴岡市社会教育課長であった。

「由良と由良蜂子皇子に結ばれて……」と懐かしい丹後由良での歓迎歌を乾杯の言葉にしてくださいと胸が熱くなる。まもなくNHKTV放送で今朝の交流会における由良小児童が大写しとなり、会場一斉に拍手が湧きおこる。

昨年由良小訪問児童のお母さん達や以前の訪問団の方々が一人ずつ丁寧に挨拶に回られる等、恐縮しながら温かい人々のお心にふれ、更に数々のご準備ご配慮に対して大謝。
夢にみし庄内由良を訪れて
古き縁に益交すなり 博司

八月二十七日

〇鶴岡市役所訪問 東北の小京都と呼ばれる鶴岡市は八百年の昔から城下町として栄え、数多くの史跡、文化財がその面影を伝えている街。

堂々として落着いた建物市役所に着き、エレベーターで三階へ。富塚陽一市長さんは公用の為、阿部禧朗助役さんと対面。

中西孫兵衛会長より、宮津市長からの親書を手渡し暫らく対談。玄関で記念撮影の後、助役さんと握手して乗車する児童達は弾んでいる。
〇羽黒山登拝 標高四一四米ながら二四四六段の石段ときく。バスを降りて随神門をくぐる。祓川の朱の神橋を渡り暫らく歩くと羽黒山中最大の爺杉(国指定天然記念物)が立つ。幹の周囲七・八米の巨木を一同見上げる。

すぐそこにかの国宝、羽黒山五重塔が聳える。塔の高さ三十米。約千年前、平将門の創建と

伝えられ現在の建物は一三七九年の建立ときく。南北朝時代の特徴をよく表わし素木造り。憧れの塔である。目を凝らす。やがて一の坂にかかる。右手に相生の杉が魅力的。二の坂の休憩所で庄内平野を一望する。眼下に広がる砂丘はメロン作りで有名。

出羽初秋ここは二の坂眼下青 一息いれて三の坂。元氣一ぱいの児童達、森本PTA会長を先頭に飯田小学校長、宮崎先生、「久しぶりに登ります」と仰有る神林・佐藤・佐藤の三氏と私達は共に急坂を上り、羽黒山参籠所(斎館)に到着。

恰も清水の舞台を思わせるような風光絶佳の地、木々が初秋の風を運んでくれる。ここで精進料理を頂く。爽やかな山菜のオンパレードは美味。この素材は全て三山の恵みなのである。中でも、月山筍の美しさよ。

「二四四六段の石段を踏破し

霊山羽黒山を参拝した」という健脚を讀める認定証が用意されていて全員に授与され、自ずと顔がほころぶ。

羽黒山頂大鳥居をくぐると、左手に蜂子神社。出羽神社合祭殿は、月山・羽黒・湯殿山の三神を合祭し、代参の場とされていて建物は朱塗。茅ぶきは全国有数の豪壮なもので文化十五年の建築。庄内由良自治会のご厚志により一同ご祈禱をうける。

前庭には昔から神聖な場とされる鏡池（由良海岸の洞窟に続いているという伝説）があり、長い年月にわたって鏡が奉納されていた由、今まで数百面の鏡が出土し、現在百九十面が国の重文に指定され山頂の歴史博物館に展示。

○出羽三山歴史博物館 芭蕉関係の古文書や荒沢寺の仏像、鏡池から出た古鏡等、本年は千四百年祭に因み蜂子皇子の画像なども展示されて興味ぶかい。館を出ると芭蕉の

涼しさやほの三日月の羽黒山の句碑が三百年前の往時を偲ばせる。

○致道博物館 庄内の明治村といわれ、維新前藩主の御用屋敷で、本館は美術展覧会場、重文の多層民家、民具の蔵、旧鶴岡警察署庁舎と旧郡役所などは共に白亜三層の明治初期洋風建築。酒井氏庭園は貴重な書院庭園といわれる等、国や県の指定文化財が多い。

きょうは終日、鶴岡市のご厚意で市役所観光物産課主事の藤沢實氏が市のバスに乗車されて懇切丁寧なご案内をしてくださった。一同敬意と感謝を表してお送り頂いた由良荘の玄関で別れする。

歓待に続く歓待の中で二日間の滞りも今宵のみ。ライトアップされた白山島の橋がくっきりと夜の海に浮かびあがり美しい。会食しながら楽しく話し合う。両由良の児童達の交流学習の成果、今後両由良の発展を担う

子供達への期待。豊富な農水産物・温泉・道路の整備など、ふるさとを愛する人々”が自発的な行動をおこしていく事で活気づいている庄内由良（約三七〇戸）の姿、信仰に生きる人達の温かい歓迎への感謝等々、尽きぬ思いと名残りを惜しみつつ夜おそくまでお世話くださった佐藤峯男副会長さんにお礼をのべお帰り頂く。

— 八月二十八日 —

自治会・小学校関係の十人は帰途につかれる。歴史をさぐる会はもう一日。佐藤副会長さんは今朝も早々に由良荘まで私達を見送りに来てくださって一同恐縮しつつ再会を約してお別れする。車で朝日村へと向かう。

○滝水寺大日坊参詣 大同二年弘法大師の開基。湯殿山は女人禁制であったので大師は女人の心を察し、湯殿山大権現を招いて建立したと聞く。

ここには即身仏が今に生きている。代受苦菩薩真如海上人は

一生を捧げて衆生を救うことを誓願、生身のまま土中に入定、即身仏となられた由。褐色の皮膚は光沢を帯び、法衣着用で坐したお姿である。瞑目して合掌。同胞の幸を願いし即身のみ仏の前に唯涙する 有全

安楽死を望む我が前にみ仏はミイラとなりて安らかに坐す 寿朗

○湯殿山 その名も優しい「月山花笠ライン」を車で湯殿山へと向かう。

湯殿詣での修験道行者は、まず羽黒山で入峰修行、月山登頂で肉体も精神も滅する艱難に堪え、湯殿山で成仏する。芭蕉も「惣じて此山中の微細、行者の法式として他言する事を禁す。仍って筆をとどめて記さず」と遠慮して語らない。「芭蕉を訪ねて」より抜粋」と記されている。標高一五〇四米の湯殿山は、三山の奥の院として信仰されているが、ご神体は山ではなく、霊湯（温泉）で褐色の霊巖（岩）

なのである。

このご神体は仙人沢沿いであり、バスを降りて十分ばかり石坂を上り沢に下りていく。入口で裸足になりお祓いをうけて形代を流し、湯の流れているご神体（霊巖）の上を登り、湯を一口飲む。身も心も清まる思い。お供えの賽銭がまた濡れて光っている。写真撮影は禁止である。月山を望みつつ時間がながい。酒田市へ向かう。

最上川は昨夜台風の通過による風雨で濁流となり、舟下りは出来ない。増水して膨張した川は、傾くように苦しむように流れていく。

○酒田市立歴史資料館 江戸時代日本海有数の港町の歴史資料や、酒田市大火当時の写真等が展示されている。千石船の模型などが、特に船頭を多く出した由良としては最も興味をひかれるところである。

○山居倉庫 米どころ庄内地方のシンボルとして百年の歴史を

もつ。明治二十六年、酒田米穀

取引所の付属倉庫として建設されたのが始まりである。当時は鉄道もなく、舟による輸送が大きな役割を果たしていたので、倉庫の場所は積み降ろしに便利な最上川と新井田川とに挟まれた中州（山居島）が選ばれた。現在は十一棟。一棟に二万俵の米が貯蔵できる蔵が一行に並び、昔使われた舟寄もそのまま残り、裏側はけやき並木が見事である。

七棟目の庄内米歴史資料館には、古い農具、ジオラマ、検査風景等々展示。現在は庄内経済連の連合農業倉庫として活躍し、観光名所ともなっている。NHK TV「おしん」の「酒田ロケ写真展」も興を添えている。

その他、酒田港の回船問屋として財を殖し、大地主となり事業を拡大した本間氏の別荘・庭園を戦後初の私立美術館とした本間美術館や、庄内藩酒井家に献上した本間家旧邸、更には日本最初の写真専門の美術館「土

門拳」記念館など存分に見学。

山居倉庫が眺められる「若葉旅館」に一泊。京風のすずやかな館内、自然体で接してください。再訪したいところである。

八月二十九日
酒田駅から乗車した特急「白鳥」の窓外には、庄内平野・越後平野・そして日本海が青い。人生を旅と観した俳聖芭蕉は、歴史の厚みを通してものを見る——という歴史への旅をした。

羽黒山も湯殿山も、また最上川も酒田も、そして今私達が羽越本線で敦賀までの帰路も、芭蕉「奥の細道」の足跡なのである。

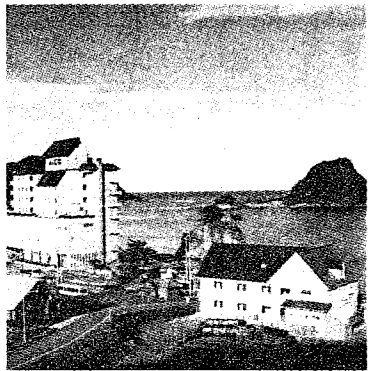
出羽の国庄内由良訪問を終えて帰るこの車中で、四方会長の短歌三首を皮切りに、まるで爽だつ風のように皆一句、一首を詠み紙片に書きとめて回し更に作歌、句作を重ねていった。文中の俳句や短歌は、そうした忘れがたい直情の証である。

車窓には蜂子皇子が辿りし海

はるか 俊夫

遙かな時空を超えて今なお出羽三山の開祖として、庄内地方をはじめ多くの人々から敬愛される蜂子皇子、その皇子出港の地という縁によって花咲いた親善交流の旅は、私達にとって、また次代を生きゆく子供達にとって、海風の吹くひとすじの大切な細道なのである。
約したる友好の絆きずな子らに託し
伝えゆくべき未来を思う

夏江
この一文は、山形県鶴岡市由良の神林自治連合会長様はじめ、皆々様からの熱い歓迎に心から感謝しつつ書かせて頂きました。



出羽初秋

小谷 一郎

出羽初秋二四四六段羽黒道は坂

出羽初秋羽黒二の坂息いどふ風

出羽初秋なれども羽黒雨やまず

出羽初秋加茂は小さき港町

出羽初秋日和山は見ずかえりけり

友 好

四 方 寿 朗

由良と由良子らの誓いはかたくして声高らかに秋天渡る

八年前の友好の歌を誦そらんじていま乾杯の音頭とるきみ

(当時、鶴岡市社会教育課長 佐藤廣雄氏)

大いなる希望わき出づ石段を登りのぼりて社に立てば

(羽黒神社)

友好のきずな確かに天に満つ きょう庄内の空は晴れたり

八月の終らんとして出羽に祈る我に戦死の友あまたあり

文化祭

池坊展に出展して

中 西 寿 子

公民館行事のビッグイベント文化祭が、今年も盛大に行われました。毎年、池坊展に出展さ

せて頂く私は、この日が近づいて来ると、「今年はどうな花を生けようかな」「あの花材をどんな風に使ってみたいな」などと、無い知恵をふり絞り、頭の中に思い描くものです。

前日からの生け込みにも、勇んで行くのですが、先輩方の個性豊かで品のある力作を観ると、圧倒されてしまいます。

しかし、花器とにらめっこしていても始まりません。自分らしさを表現して、いかに花を生かして使うか、まだまだ未熟な私には、とても難しい事ですが、小室先生にご指導頂きながら、

心を込めて生けさせて頂く事が出来ました。

足を運んで観に来て下さる方々の心に残る作品は出来ないかもしれませんが、心が和む作品が出来れば、これからも学ばせて頂きたいと思っております。

華道を習い始めて、まだ五年にも満たない私ですが、今までも気にもとめなかつた道端の一輪の花をかわいと思う気持ちを大切に、頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、お世話頂いた役員の方々、地域の皆様にも、心から御礼を申し上げます。

区民運動会

山田 忠 雄

本年も厳しい残暑の下、恒例の区民運動会が行われました。

今回の区民運動会は私にとつて大変印象深いものとなりました。といいますが今回は七月下旬の競技種目の検討から始まり八月下旬の選手選考、用具の点検、さらには出場選手への出場依頼までの区民運動会の一連の運営を体験させてもらったからであります。

正直なところ今まで自分が体験するまでは大会当日にグラウンドの中でお世話をされている役員さん達を見て「いつもあの人達ようやるわ、目立ちたいんやろか。」などとどちらかといえは冷やかな目で見ていた気がします。

ところが自分が当事者になっ

てみますと先輩の役員さん達の長年にわたるご苦労が身にしみてわかり、実際は大会当日にはもう既に運動会の九割は終わって

いて、本場に大変なのは大会の始まる前までだということを実感した次第であります。

ところで当日の私はといいますが、午前中の二四〇オリレーにおいてはずか半周ながら足がもつれてバトンを渡さずにこけてしまい、午後のたるころがしでもまたしてもこけてしまい腕中をすりむいて四方先生に赤チンの大安売りの応急処置をしていただく始末でありました。

代役で出場した四部対抗リレーにおいては「さっき半周で足がもつれてこけたのにどないして一周走ろかな。」と考えている

うちに何と四部がブッチギリの一位で二位とは三〇メートル以上の差をつけて私にバトンが渡ってしまいました。

「これはよわった。今度こけたら何を言われるかわからんがな。」と思いつつ必死で走りましたが大量リードも何んのその見事に大逆転を許してしまいました。

しかし、幸いにもアンカーの小室さんがゴール直前で三部を抜き去り私の面目はかろうじて保たれたのであります。

そして運動会後の慰労会においては小室さんの大逆転を写したビデオで盛り上がり、それを見ていた地区の先輩から「お前が抜かれたから小室さんの劇的な逆転につながったんや。よう盛り上げてくれた。」という温かい励ましをいただき、単純な私は「そうや、そうなんや、私が抜かれたさかいにこんな劇的な場面が生まれたんや。そういう意味ではヒーローやないか。」と落ち込みからすばやく立ち直

るとビールのもまいことといったらこの上もありませんでした。それ以来私は、次回の運動会もうまいビールを飲むため、日頃の運動不足解消をかねて足腰を鍛えようと毎週水曜日の夜、八時から由良小学校の体育館でバドミントンサークルに励んでおります。

週一回のバドミントンで約二キロ(終ってからビールを飲む前に測定)のダイエットになります。ダイエットにお悩みの方がおられましたらご一緒に汗を流してみませんか。

最後になりましたが、大会当日朝早くからお世話になりました役員さん並びにあちこちが痛いといながらもいざ競技となると一生懸命競技をして下さいました各地区の皆さん、暑い中本場にご苦勞様でした。今後区民運動会がますます盛大に行われますことを心からお祈り申し上げます。

区民大運動会

婦人会 岩崎淑子

この春に体育委員には一番相応しくない運動神経の鈍いわたくしが、役を仰せつかりました。その様なわたくしに、いったい何が出来るのかと思いつつ日は流れ、とうとう区民運動会の日がやって参りました。

心配された空模様も暑い程の上天気で、まずはほっと一安心。当日係は決っていたものの全く何をしたら良いのやらプログラムの片手に、いちいち本部の人に聞いては行動する始末で、もう少し事前の連絡をわたくし達にもきっちりとしていただけたらもっとスムーズに進行出来たのではと思っております。

地区の人集めは大変でした。その日いくつかの高校の文化祭とぶつかった事も有り、若年層

がただでさえ薄いわたくし達の地区には痛手でした。出てもらえる若者にはフル回転で、おじさんおばさんも一緒に頑張りました。もちろん年配の方も。

それにふだん余り運動していない人が急に全力で走ったものですからけがをした人があちらにもこちらにも……。どうなる事かと大いに気を揉みました。準備でも反省しなければならぬ事がありました。おしどりかごの籠の紐が外れるなどという事は、きっちりと事前に調べていたならば、とても考えられない事でしょう。全くもってわたくし達のミスで皆様に御迷惑をおかけいたしましたて申し訳なく思っています。

何か新しいものをしようでは

ないかという意見が出て会議を重ねた結果、前回までのラムネ飲みをただ飲むだけではつまらないのでストローでそれも長いものでジュースを飲もうじゃないか、それでネーミングは、一気にストロー(吸とろう)と決まった次第です。

アイデアはとても良かったと思うのですが、ルールがもうひとつ徹底されていなかった様に感じました。もしこの次もこれをプログラムに入れるのであればきちんとして立った姿勢でストローを出されるだけ伸ばして飲めば、もっと観客にもアピールしておもしろいものになると思います。出場された選手の方々に感想を伺いましたが、

「ああ、しんどかった。」

「苦しいて死にそうやった。」

「あんたもやってみたら。」

などで、大変御苦勞様でした。心から御礼を申しあげたいと思います。

何だかんだと言いながらも、

その場になれば皆一生懸命です。勝てば嬉しいし負ければ悔しいし、どうして普段からもっと運動しておかなかったのかと悔やんだりもします。

世の中の移り変わりや諸々の事情で区民運動会もだんだんといにくくなって来ていると思いますが、より良い形で少しでも多くの人々に楽しく参加していただける運動会であってほしいと願いながら、短くも長く、長くも短いわたくしの一日が暮れました。



文学の見える風景(二)

森鷗外「山椒大夫」文学碑

中 西 夏 江

由良の脇公園に森鷗外「山椒大夫」文学碑が建てられたのは、昭和五十四年の秋でその除幕式は十一月三日、森鷗外の次女で随筆家の小堀杏奴氏を招いて盛大に行われました。その日は、澄み渡った青空と海が温かい陽光に満ち満ちてとても明るい秋日和でした。

小堀杏奴氏は、静かな優しい雰囲気をお持ちの方で前日、汐汲苑で初めてお逢いした時のお話の中で、「『安寿は杏奴だよ』と父が申しておりました。父は、五、六才の私を傍にみながら『安寿』を書いたのでしょうか」と言われたのが印象的でした。碑文は次の通りです。

厨子王が登る山は由良が岳

の裾で、石浦からは少し南へ行って登るのである。柴を刈る所は麓から遠くはない。

略

浜辺に往く姉の安寿は、川の岸を北へ行った。さて潮を汲む場所に降り立ったが、これも汐の汲みやうを知らない。心で心を励まして、やうやう杓を卸すや否や、波が杓を取って行った。

「山椒大夫」原文より
前尾繁三郎書

後日、小堀杏奴氏から頂いたお便りの中に、「亡父の『心で心を励ます』といふ言葉は、頼る者のない安寿の憐れさを深く感じさせました」と書かれています。

ました。

普通私達は、「心を励ます」と言っていますが、「心で心を励ます」という言葉には、逆境に立たされた孤独な安寿の悲痛さが最大限に表現されていることを改めて知りました。何気なく読んでいた言葉や文章に作家の心がこめられていて、それが私達を感動させ文学作品を読む愉しみとなるのでしょうか。

小説「山椒大夫」は大正四年、今から七十八年も前に発表されましたが、幼児から学生、大人も親しむなど多くの愛読者をもっています。鷗外はこの小説について

「『山椒大夫』について夢のやうな物語を夢のやうに思い浮かべて——」と記し、伝説のおおよその筋をたどりながら、相当地に自由な想像を加えながら書いていったと述べ、また、「歴史上の人物を扱ふ癖の附いたわたくしは、まるで時代と云ふものを顧みずに書くことが出来な

い。そこで調度やなんぞは手近にある和名抄にある名を使った。官名なんぞも古いのを使った。現代の口語體文に所々古代の名詞が挿まることになるのである。同じく時代を蔑にしたくない所から、わたくしは物語の年立をした。即ち、永保元年に謫せられた正氏が、三歳のあんじゅ、當歳のつし王を残して置いたとして、全篇の出来事を、あんじゅが十四、十五になり、つし王が十二、十三になる寛治六七年の間に経過させた。」と書かれています。

このことは例えれば、「仙洞がまだ御位にをらせられた永保の初に、國守の違格に——」「遙授の官で、任國には自分で往かずに、椽を置いて——」等々、言葉や時代の書き方を随所に見ることが出来ます。

他に、安寿と厨子王が逃亡計画をした為、額に烙印をおされたのは夢の中の出来ごととした所や、元服した厨子王が、丹後

の国守となり丹後一円で人の売買を禁じ、山椒大夫も奴婢を解放して給料を払ふ—というように、悪に報いるに悪をもたず（因果応報からはなれて）近代的な解決にした所などに、鷗外のヒューマニズムの精神が光っているのを知ることが出来ます。

作家の田宮虎彦氏は、
「鷗外の作品の魅力は、簡潔な表現と適確な構成がকাশし出す完成された美しさにあると思ふ。それは、いってみれば、かすかなぎす一つ見出すことの出来ない珠玉の美しさである。」
といっています。

評論家の小堀桂一郎氏は、
「『山椒大夫』が我々に与へる感動は半ばはその文章の格調の高さによるものと言へようが、なほそこには現実の自分の非力にも拘わらず己を超えた何ものかを信じて生きる人間の持つ不思議な強さとかいったものが美しく造型されてゐた。」と述べ、更に年少の読者に文の美しさを

教えるによいと同時に、老成者にとつても再読三読して玩味するに値する傑作だと解説しています。

立教大学教授前田愛氏は、
「互いに励ましあいながら働き続ける安寿と厨子王の姉妹愛は、むしろ明治の時代を生きた姉と弟の理想の姿といった方がいいでしょう。明治時代の少年都会に遊学し、家の名をあげることを要請されましたが、かれらを支えるかくれた力となつたのは、国もとに残つた女性たち——母や妹たちだつた場合が少なくないのです」と、「少年少女日本文学館のたけくらべ・山椒大夫」（講談社）に解説文を載せています。この図書は、本文を総ルビとし、むずかしい語句や事項には、小さな字で注が加えられ、更に説明を必要とする語句や事項には、*印をつけ、イラストやくわしい注をつけ加えてあります。「例 大雲川

（現在の由良川）」一読をおすすめいたします。

由良には、山椒大夫伝説とその遺跡があります。伝説はその土地に根づいて、人の息吹きが感じられ、人々の考え方や祈りや喜びや悲しみが伝わってくるものだと読んだことがあります。文芸教育研究会の井戸賀芳郎氏の一文を紹介しますので味わつて頂ければと思います。

「小説には、情景と心理を巧みな表現で印象づける効果があります。例えば、「ごらん。もう春になるのね」の「もう春になる」は、弟の未来の運命を明るく暗示し、また、

「それは安寿の杏であつた」という表現は、自殺とか死とかの言葉を用いず、安寿の死を静かに暗示しています。しかもこの簡潔さは、愛する弟に自分を捧げた、あまりにもいたましく美しい、安寿の清らかな死を伝えています」

文豪・森鷗外は、私達にすば

らしい贈物「山椒大夫」を残してくれました。あまりにもどぎつい言葉が氾濫している現代、私達が忘れかけていた心の原郷が、この美しい小説「山椒大夫」にあるように思われます。読むほどに絵巻物を繰るような美的情感が漂ってきます。

このころ、ものから心の時代へ——という言葉もきかれますが、小説の主人公達も、私達の遠祖も、青く澄んだ空や海の彼方に、そして無限の時空に、ほのぼのと息づいて感じられる、そんな作品「山椒大夫」の文学碑なのだと思いますがいかがでしょうか。



長浜の盆梅

大森 悠紀

川 柳

宮津番傘川柳会

古木なれど若木に交じり競ふごと濃紅こいくれなるの盆梅の花

馬酔木売る寺の廻廊ひえびえと半葩はじとみや破れて風吹きぬける

鴨鍋を供する湖畔の宿に咲く雪かとまがふ三桎みつまたの花

千成りの瓢箪飾る駅舎跡に古城眺めて古徳いにしへぶ

瑠璃売場にあれもこれもと擇えりあぐね一つ購あがたふ染分けの花器

ガラス焼く工場はかつて土蔵とかいみじくも呼ぶ黒壁館やかた

肺切除するてふ病友ともは手を握りひたに祈るのみと大き泪す

病む友と眺めし桜花散り果てて空きしベッドの白き目に泌む

転院をして行きし病友はいかならむ共に眺めし花散りゆくを

病窓に眺める家並変はらねど銀杏樹の黄は日毎色増す

恰好よい足して二で割る独楽の芯

労働の汗を眉毛は受け止める

惜しみなく与えた愛の明と暗

下書きのまま黄昏れてゆくいのち

おしゃべりが築く女の砂の塔

底辺に慣れて無欲の笛を吹く

田村 キヌエ

大森 美智子

飯 沢 鳴 窓

まちづくり座談会

浜野路分館長 岸 田 博 司

「公民館活動における分館長の果たすべき役割は何だろうか」「分館長は何をすればよいのだろうか」

過日、自治会長から推薦され公民館長から、浜野路分館長の委嘱を受けたときの率直な感想でした。

私事ですが、由良を離れて三十三年間を、北海道から沖縄まで全国各地で勤務して参りました関係で、あちこちの生活や風俗、習慣、人間性等についていろいろ学ぶことができました。しかし、由良のことに関してはあまりよく知らないというのが実状で内心忸怩たる思いを致しております。

帰郷後約四年が経過しましたが、この間に公民館の文化部幹

事を二年間やらせていただき、お蔭様で由良地区の公民館活動について勉強させてもらうことができました。その経験から、

公民館の幹事は、体育部幹事も含め生涯学習ボランティアでなかるうかと感じております。幹事は、公民館が地区住民のために計画し立案した各種行事及びサークル活動に積極的に参加するとともに各地域の住民に広報し、参加者を集め一緒にやっっていくボランティアでなければならぬと考えております。

事実、幹事は名声や地位や金銭その他の利益を得る目的ではなく、自主的に無報酬で地域社会に貢献するボランティア精神で公民館が計画する生涯学習の活動にたずさわっております。

したがって分館長としてはその生涯学習ボランティアの活動を具体的にかつ又、積極的にポリシーを持って推進する者でなければならぬと考えます。

さらに、分館長には生涯学習推進員としての自覚とリーダーシップとチャレンジ精神が求められると考えます。又その有無が公民館活動を大きく左右するであろうと考えます。分館長は公民館活動活性化の根源であると云っても過言ではないと思えます。

こうした観点から私は平成五年度の公民館文化部の事業計画の中で初の試みである分館行事(まちづくり座談会、高齢化社会懇談会、文化教養講座)のうち浜野路分館としては「まちづくり座談会」をテーマとして取り上げ、行動方針を定め文化部幹事の支援、協力を得て浜野路住民のできるだけ多くの人達が自主的に参加していただくことを目標として取組むことに致し

ました。

過去において「ろばたこん談会」と称する行政主催の懇談会があったと聞いており、それなりの成果はあったものと思われませんがその資料も見当らず下馬評では、参加人員に制度があり、行政に対する希望意見を述べ、聞く場に終始したと聞いておりました。

今回は分館が主催する生涯学習のための公民館活動であることを理解していただき、浜野路の住民がかかえている問題を提示していただき皆さんで考え忌憚のない意見を交換する場とすべく、放送、回覧、案内状の配布、口こみ等でPRして実施することと致しました。

当初は七月九日に実施する予定で準備しておりましたが、新しい試みや変わったことをすることに對して不安を感じる人もおり、又衆議員選挙の告示もあって結局七月二十一日に延期して実施することができました。

浜野路文化部幹事の支援、協力を得て、分館長による司会、

進行、由良地区公民館長の挨拶、及び各分館長全員の同席を得て浜野路地区の多数の皆さんに参加していただき建設的な意見を積極的に述べかつ討論していただくことができ浜野路分館として、公民館活動の初期の目的を果たすことができたと思っております。

今回の座談会で提案された問題につきましては、浜野路の皆さんからの貴重な意見として取り上げさせていただき、今後、他分館の意見も合わせ、皆さんの関心のある問題から、かつまた公民館で実行可能性のある問題から逐次取組んでいきたいと考えております。

他の分館においてもすでに実施したところもあり、その結果についてはいづれ報告があるものと思いますが、今回浜野路分館のまちづくり座談会において提案され意見交換のあった項目

のみを列挙して結果報告とさせていただきます。

「意見交換項目」

一、まちづくり座談会の題目が漠然としており、公民館活動としてふさわしい題目を限定してやってもらいたい。

二、冠婚葬祭がだんだん派手になっていく、申し合わせて簡素化できないものか。

特に葬式が浜野路は派手である。食事や、連夜の菓子等、メニューとか品目をきめて簡素化できるものからやってほしい。

三、農業の後継者問題について。

四、児童減少の問題について。

五、市民農園法を活用し、農業の活性化を図ることができないか。

六、観光と自然保護啓蒙活動として、川の博物館を建設してはどうか。

七、駅裏の開発はできないのか。

八、観光開発を推進すべきである。

①山椒太夫をもっとPRすべきである。

②由良川のウインド・サーフィソ等、レジャー開発すべきである。

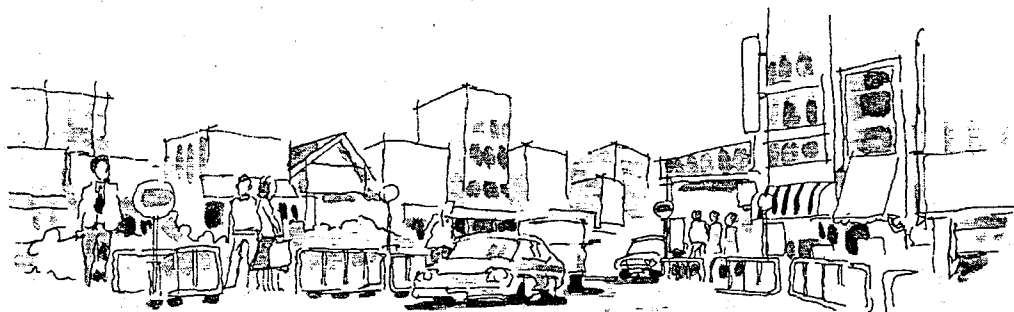
九、高齢化社会のまちづくりのために、六十五才以上の人は全員、老友会に入るべきである。会費の件もあるが、入らない人が多く問題である。

十、公民館が計画する各種行事に参加者が少ない。

お互いに声かけあって誘いあって参加するのがよい。

十一、公民館の行事として、歩こう会、を計画してはどうか。

十二、自治会における女性の問題について。
班長、役員等、女性にもできるものもあり、女性の活性化のために、皆んなの意識改革が必要である。



七十年前の由良小学校

火災と改築のことなど

中西 芳三郎

浜野路自治会の記録によると、由良小学校の火災は大正十一年五月二十五日午前一時出火、同三時鎮火、火の廻りが早くみるみる内に第一校舎、雨天体操場、第三校舎が炎々たる焰に包まれ凄愴を極めたこと、書かれ、その損失の額は建物三〇八坪、六一、六〇〇円。校具、一二、二〇〇円とある。

当時の村長、大森清四郎氏。助役、沢井貫蔵氏。校長、竹内亀吉氏と建築委員によって再建計画が進められた。

設計は福知山市、伊木熊蔵氏によって一、本館二階建一（一階、職員室、二階、講堂）二、校舎、一階三教室のもの三（五間×一五間）三、雨天体操場一

（二五〇坪）四、附属家、予算計一〇一、九八〇円。由良地区割り当て額については再三協議の上、四八、一三〇円とした。

寄附を先ず、本館（予算額二四、六〇〇円）で、中西一雄氏、上田鉄蔵氏の両氏に、校舎一棟を、沢井組と、小室余蔵の両氏に御願いする事を決め、地区割りは、再三協議の上、

上石浦 二六戸 四、五四五円
下石浦 二四戸 三、三〇〇円
港 四、五二〇円
浜野路 一、二九〇円
東崎 三六戸 三、九八〇円
松下 三七戸 五、七三五円
脇 一三、九三〇円
家門 一一戸 八三〇円
計四八、一三〇円と決める。

港、浜野路、脇に戸数が書入れてないのは寄附予定者を入れなかった為とされている。

地区割当とは別に消防組、在郷軍人会、婦人会、青年団等にも割当てられている。浜野路ではこれを次の等差で割りあてた。

1等		7等	320円	13等	160円	19等	60円
2等		8等	290円	14等	140円	20等	50円
3等	500円	9等	260円	15等	120円	21等	40円
4等	450円	10等	230円	16等	100円	22等	30円
5等	400円	11等	200円	17等	85円	23等	15円
6等	350円	12等	180円	18等	70円	以下免除	

一、二等に金額が入ってないのは特志寄附を予定したため。大正十一年の加佐郡米価は一石（一五〇kg）二八円、同十三年は旱天による全国的の不作で一石三五円となっている。七等の等差の人は三二〇円八等の等差の人は二九〇円の寄附割当てをうけていると云う事は米十石分の割当金額を受けていると云う事になる。

大正の終りから昭和の初めの日傭賃金は一日五十銭であった。大正七年に電灯が由良に初めてついているが、その時八〇%近くの家庭では十燭光一灯の申込よりなかったと聞かされている。その時代のその様な生活をお考えになつて、この負担割りを見て下さい。村長はじめ建築委員は、できるだけ立派な新校舎を建築したいと考え地区割当ての倍以上の寄附額を見込んで頑張られたと聞いているが、その篤志寄附の詳細は知る事ができなかった。其当時は国の補助等は

無く全額地元負担であった。その十二年の末私は一寸のつもりで大阪から帰ったが、その当時の由良青年団は中西俊夫様が由良の歴史第二号に中西林兵衛様の遺稿で書いていられるように、青年団活動が活気にみち溢れた時であり加えて舞鶴、宮津間の鉄道開通と、小学校の改築完成祝いなどを控えて役員達は、はちきれんばかりの活躍ぶりに、ついそのグループに入りこんだら青年団長を押しつけられる。間もなく駅の名称が決まらないと云う事で青年団役員会に相談をもちかけられ「丹後由良」と決まる。二月に入ると宮津までの鉄道開通を機に、池松京都府知事が丹後路視察にくる事になったようでの時の府会議員中西一雄氏から由良小学校改築祝賀会に臨席方を依頼した所、小学校の改築位は当時郡役所もあり郡長もいたので知事が臨席すると云う様な事はなかったが、知事はこの村でこれほど立派な小学校

を建てたと云う事は褒むべき事だと云う事で行程を一日延ばして快諾されたと云う通知が役場に届いた。そこで加佐郡会の議長の経歴をもつ大森村長は、有名で詩人の初代宮津水産講習所長の牛窪基三男氏に祝辞を依頼して知事の特別臨席に備えた。

◎小学校改築竣工祝賀会

日時 大正十三年四月十三日

場所 小学校 本館講堂

特別御臨席

京都府知事 池松時和閣下

来賓 加佐郡長 大場義衛殿

府会議員特別寄附者中西一雄殿

特別寄附者 上田鉄蔵殿

特別寄附者 沢井組毛利社長殿

特別寄附者 小宝桑蔵殿

その他府視学、郡視学、その他特別寄附者も列席されていたであろうが思い出せない。

式は、大森村長の式辞にはじまり、沢井助役の工事経過報告

池松知事の特別祝辞

祝辞 宮津水産講習所所長 牛窪基三男殿



由良青年団長中西芳三郎

竹内小学校長の謝辞、生徒代表の御礼の言葉、特別寄附者に対する感謝状の贈呈、建築関係者に対する謝状と進んだように思う。

その前日 四月十二日に、国鉄宮津、舞鶴間開通祝賀会と池松知事の歓迎会が行われた。駅構内に歓迎アーチ一、凧つり一、駅前には脇、宮本、浜野路、港の計四台の綺麗に化粧した屋台が並べられ村をあげての喜びから村長はじめ大勢の村民から小

学生まで嬉しき一杯の大きな声と手をあげ旗を振って知事さんの歓迎と国鉄幹部と新駅長を迎えての鉄道開通祝賀行事が行われた。この行事の準備などはすべて青年団の責任で遂行したことを今思い起こしている。

追記

この文は、浜野路自治会の記録と、七十年前のおぼろげな私の記憶をたどって書いてみたものです。



郷里に於ける澤井市造話題(六)

作 中西 孫兵衛 (先々代)

由良の歴史をさぐる会 四 方 寿 朗

されど前年小室君をして督促されたるを見れば権利上咎むべきにあらざれども仙太郎氏に対する態度如何と尋ねたり答えて曰く「イヤ絶対的に取戻請求といふにあらざらず勿論式百や参百の金が此方の経済に影響するにも非ず去れとも仙太郎の心得其意を得ず自分が儲け得たる資金とは違ひ営業上其心懸けを為し家政向にも注意し居らば敢て請求すべきにあらねども成るべくは此際一度約束の利足は立つる様せざれば彼の為に今僅の金なりとはいへ戻させるとせば営業資金の運転に大打撃を加へ層一層困窮するは當然の理其事は能く察し居れり故に彼を窮地に陥るゝは我の本意にあらざり何為れぞ返

濟を強いんや只彼を督促する手段に止るのみと私は更に「然らば快く證書を戻し遣られたらば宜しからんに」と言へば「否それはよろしからず猶更監督の要具に供すればなり」と答へられ

(八)

明治三十三年八月頃小室家の建築ありしと覚ふ此設計仕様は小室の翁と澤井弥蔵氏を仲間に入れ中西伊右衛門氏の手になりたるものにして他の親類なり私等は何等御話を承りたる事なく陰ながら普請の噂を聞居り礎つきの時私は舞鶴滞在で留守宅へ招待の使を受けたとの事はが建築に付ての始ての表面の通知なり尤も大工は伊右衛門氏なり親

類としては弥蔵氏加はれり何等不備とする欠点あるにあらざり建築物は立派の構造にてあれば唯成竣の好結果を心切かに祝し居けるに豈図らんや市造君より激烈なる責任問題の立腹の手紙に接せんとは実に寝耳に水青空一霹の感に耐えず迷惑限りなかり

兼て御話せし通小室の伯母は私に取りて実母に優る恩人なれば此人より老後の楽として隠居所を設くべき請求を受け何事にもあれ身に叶う事なれば承諾すべき積にて先年台北に於て金千圓差上ぐべきに付是だけにて出来る座敷を気に適する様為さるべく旨申送り此事は貴殿にも御話致し置きたり篤く御熟知の筈此頃建築したる趣にて工費金請求し越せしかば追次送金したる処今又更に請求し来をり金を通笑すれば約束の範囲大に超過となれり如何なる思召を以て左様の処置に出でられたる哉其意を得ず折角の申越にはあれど約束

の限にあらざれば更に語を為したる以上に非ざれば要求に応し難しと言ふにあ 実に当惑とやいはん寝耳に水とやいはん元来私は今回の工費は幾何なるや設計は如何なるや製図だも一覽したる覚なし尤も千円云々の事は曾て老人よりも市造君よりも承りたる事はあれども該建築に付ては何れの方面よりも承り居らず況んや今日までに何程の送金ありしや等知れる様なし其趣を認め回答せんかとも思ひしかども一応関係の人々に聞きたる上にすることよけれと直に談示に及びたる処成程千円に遠からぬ送金となり居此方より承れば図面を送り承認を受けしとの事之によりて倍々疑惑を生じ如何様なる返答して可なるか殆んど考もつかず甚だ拙なる事を回答し當場をにごしたりしが折返しに郵便為替を以て私に當てたる書留郵便来れり其文意に抛れば工費の取締を為し确实と認めたる上に於て其必要に適する宛だけ

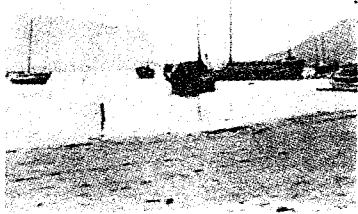
支出すべき様との事誠に狐狸にでも魅られたる如く何が何やら一向合点行かずでありました其後先づ一段落を告げた時小室翁と弥蔵氏同伴訪問され決算せよとの事之は後の送金に對する金以外に私には関係なき事なり此金に利足を加算するかとの翁の御尋ねには呆れかへりました之に驚かされ支出残金拾五六円ありしを取急ぎ御兩人に渡し漸く責任を免かれたり後日弥蔵氏来られ此間の金は老人持帰りしが屋内の造作並に建具類を調へる手當更に無し如何する積りにや尋ね呉れたしとの事依て其旨を市造君に通知したれば大阪にて拵えて送るといふ返答来れり叱られ話を序手に今一つ申上くべし明治三十年に大川神社へ献納された燈籠であります初め北野儀左衛門氏を呼びにやり市造君は彫刻を築費の設計した金額にて北野に懸合になり北野は工費に不充と云ひ調談抄らず兎も角遣れとの命令的に約成り果し

て北野乃申立通不足となれり私は傍に聞きたるが係り合となり其監督を命ぜられた是とて當時は氏子惣代の職を奉じた頃にて神社への寄附とあらば喜ぶべき理依て 諾せしが四ツ石臺の据え方異法なりと御叱を蒙れるが其理由を聞けば御尤千萬是には殆んど恐縮致しました北野に其旨を通したれば全く私の召使の職工の疎漏にて何共詫びん様なしとの事故損金は何程なるや頼みやらん北野曰く萬事休す雖一向台湾にて使役せられしと然るに星霜幾多を経明治大正元年十月三日松原寺にて偶々此時の話出でけるが北野は「イエ台湾に連れ行れて非道い目にあいました」と申しましたが是には事情の存する事にて北野は台湾にて人為的如何ともすべからざる災害頻至の状況に懲りたのでせう

(九)

る地所を買取呉れとの頼談にて幸に示談整其反別は
 一、畑貳畝拾六歩
 一、同 拾参歩
 一、同 四畝拾七歩
 以上三筆反別合計七畝拾六歩
 登記済臺帳へ登録となしは同年拾月廿六日な里
 中西長左衛門より納屋倉を買ひ小室家の構内に建築せられしも同三十六年中にて大森慶蔵氏の紹介にて賣買を了す金額は百圓なりとす
 其二
 茲に重大なる問題として故市造君より相談を受けしは将来に於ける一族間の組織にして慎重に熟慮して聞かねばならぬ事柄である恰も明治三十六年と覚ゆ澤井君の訪問を受け話題先づ今日は真面目で相談に來た其積で聞いて貰いたしと常に変わる態度私も何事ならん歎と躍る胸を静めて其要旨を問ふ君徐ろに口を

聞きて曰く諸別儀にあらす我々の家の事だが常に心頭を煩はした事で小室は湊にては沢井一族の者外に一軒もなし老人も追々高齢となり向時世を去るも計り難し媼が死去の後は松下側とは自然疎遠になると思ふ松下と東崎は御承知の通に縁組となり今一二代の間は心配はなかるべく森本方が嫁を迎ふべき時期は尤も近く其森本之内は藤吉の実家熊田は伯父方熊田へは本家より嫁が来り居るといふ関係にして根柢深し。
 先の第九〇号の写真の説明が落ちていました。明治三年頃の市造翁でした。



明治初めの由良港

「年末防犯」について

由良駐在所 坂本 誠史

一、はじめに

十二月は年の瀬、何かと気ぜわしい毎日が続きます。

人の動きにあわせるように空き巣などの犯罪が多く発生する時期でもあります。

今年は景気の低迷や冷夏の影響か、「外国人犯罪」や、「米泥棒」など、犯罪の多様化や広域化が進行しています。

又宮津警察管内においても、殺人死体遺棄事件が発生(編集時未検挙)するなど、犯罪の発生は後を絶ちません。

このような情勢下の中、街の平穏を維持し、「よりよいまちづくり」を推進していくため、皆さんの防犯意識を高め、犯罪の絶無を図り、新しい年を迎えようではありませんか。

二、空き巣狙いにご注意!

気ぜわしい毎日の中で、みなさんのちょっとした心のスキをドロボウは狙っています。

空き巣被害にあわないように次のことを注意して頂きたいと思います。

- ① 外出前、おやすみ前には、確実に戸締りをして下さい。
- ② 長い間家を留守にする場合、一声掛けてから出発して下さい。

(新聞、牛乳などの配達の一時中止なども忘れず。)

- ③ 多額現金、貴重品を家に置かないようにして下さい。
 - 三、スリ、ひったくりにご注意を!
- 多額の現金を持ち歩く機会が多くなるのもこの時期です。

金融機関での現金の出し入れの際は、車等を利用するなどし、

途中で寄り道をせず、まっすぐ家に帰りましょう。

又、車から離れる時は、必ずドアロックを忘れずに。

四、あなたの自転車は大丈夫!

由良駅に置いてあるあなたの自転車、カギをかけたことありませんか。

駅で盗難にあう被害自転車のほとんどが、カギのかけ忘れです。

通勤通学で焦っているとき少しの時間だけ自転車に与えてあげて下さい。

カギを掛けることはもちろん、盗難にあったときの被害回復に、防犯登録や、車体番号が決め手になることもお忘れなく。

五、終わりに

今年も、残すところあとわずかとなりました。よりよい年末を迎えるため各種犯罪の予防に努力精進していきたいと思えます。今後、由良地区の皆さんの格別のご協力を賜りより一層の防犯を確立していきたいと思えます。

編集後記

◎ 今回は八月、出羽三山御開山千四百年祭に招待された庄内由良への親善使節団の紀行の特集を掲載する企画をたてました。庄内由良の方々の心のこもった町ぐるみの歓迎を受けて、一行の感激の極みの劇的な場面が浮かんで来る様であります。

蜂子皇子のご縁により結ばれたこの「二つの由良」の温かい心の交流の灯が千四百年の時の流れを超えて点じられたのです。

これからは共に由良の若い世代の人々にとって友好の絆となつて心の中で、永い世代に引き継がれ燃えつつけてくれることを祈って止みません。

◎ 今年九十三才で豊饒たる中西芳三郎さんが、由良小学校の火災や改築の思い出を寄せて下さいました。七十年前も前の貴重な体験を明瞭に記憶されておられる力作に、深甚の敬意を捧げるものであります。(小室記)